

環境・まちづくり系専攻
准教授

ひらまつともる
平松燈

hiramatsu@socio.kindai.ac.jp



◆専門分野の紹介

専門は地域経済学です。最近の研究テーマは高速鉄道と地域経済の関係で、とりわけ観光産業に与える影響を分析しています。主要な分析手法は、シミュレーション分析です。現存する地域を再現して、経済政策の効果をシミュレーション分析しています。シミュレーションと言うとシミュレーションゲームを連想する人が居るかもしれませんが、地域経済学のシミュレーション分析は、シムシティのような都市のシミュレーションゲームに結構近いです。

◆今後の研究課題

日本全体と関西を事例とした研究を今後の課題としています。いずれの場合も、経済環境の変化や経済政策が地域社会・経済に及ぼす影響について分析します。挑戦的な課題として、モデルに消費者の多様性を組み込むことを考えています。たとえば、年齢層や所得水準、消費行動タイプの違いを考慮することで、少子高齢化や格差社会の問題等、現代的な社会問題を課題とすることが可能になります。その他、モデル分析や統計分析も継続して行きたいと考えています。

1) 日本の地域経済分析

日本全体の空間的な経済構造を、都道府県や生活圏のデータを使って再現します。これにより、リニア新幹線のように、空間的に大きな範囲で影響する経済状況の変化について分析します。観光産業は大きな影響を受ける産業のひとつです。また、ビジネストリップや産業立地にはどのように影響するでしょうか。近畿、中部、関東の地域間関係は興味深い研究課題です。

2) 近畿経済の地域経済分析

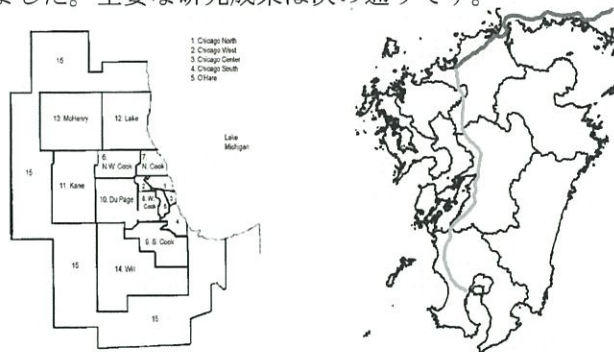
近畿経済の地域構造を、市町村のデータを用いて再現します。たとえば、近畿経済の活性化にむけた、土地利用、交通政策、産業政策や立地について研究したいと考えています。



◆これまでの研究

▶主要な研究テーマ

これまでには、シカゴや九州を中心に、経済政策の効果についてシミュレーション分析をしてきました。近年の中心課題は、九州新幹線開通による経済的な影響の分析です。たとえば、観光産業、経済活動、人口や居住地、土地利用の変化です。その他に、産業連関分析、モデル分析や統計分析もしてきました。主要な研究成果は次の通りです。



▶論文等（抜粋）

- 1) "Unequal Regional Impacts of High Speed Rail on the Tourism Industry: A Simulation Analysis of the Effects of Kyushu Shinkansen", forthcoming, *Transportation*.
- 2) "Estimation of Interregional Input-Output Table using Hybrid Algorithm of the RAS Method and Real-Coded Genetic Algorithm", 2016, *Transportation Research Part E: Logistics and Transportation Review*, 95, pp. 385-402 (with Hiroki Inoue and Yasuhiko Kato).
- 3) "Anti-Congestion Policies in Cities with Public Transportation", 2016, *Journal of Economic Geography*, 16, pp. 395-421 (with Akin C. Buyukeren).
- 4) "Expansive Urban Growth Boundary", 2014, *Modern Economy*, 5, pp.806-820.
- 5) "The Economics of Cordon Tolling: General Equilibrium and Welfare Analysis", 2013, *Economics of Transportation*, 2(1), pp. 18-37 (with Alex Anas).
- 6) *Simulation Analysis of Urban Economy*, 2012, Kwansai Gakuin University Press, pp. 1-225.
- 7) "The Effect of the Price of Gasoline on the Urban Economy: From Route Choice to General Equilibrium", 2012, *Transportation Research Part A: Policy and Practice*, 46(6), pp. 855-873 (with Alex Anas).

◆現在の研究テーマに至るまで

大学院修士課程まで近畿の学校で学んできました。大学進学時には、地域政策への文化的なアプローチに関心がありました。大学は学際的に学ぶことを目指した環境でした。在学中、機会に恵まれ、インドネシア関係の活動に参加し、交換留学にも行きました。インドネシアは文化的にも魅力的で、宗教はイスラム教徒が多く、興味深く感じました。当時はアジアでも経済的に恵まれない国でした。このことがきっかけとなり、経済の重要性を意識し、途上国の経済開発に関心を持つようになりました。この開発について勉強しようと、やはり学際的に研究できる大学院修士課程に進学しましたが、修士論文では、地域の経済成長要因について研究しました。今考えると、元々の関心と途中からの関心が合わさったように感じます。その後は、経済学を専門にするようになり、博士課程はアメリカで地域経済学を勉強しました。帰国後は熊本で研究してきました。2017年度から近畿大学に赴任し、生まれ育った近畿に戻っています。途上国や先進国、都市と地方、また文化や宗教の異なる地域を経験できたと思います。今後は近畿経済を分析対象として研究を進めたいと思います。

◆ゼミについて

学生には、好奇心を持って主体的に勉学に励むことを望みます。また、将来の夢についてよく考え、積極的な人生設計を行い、希望を持って準備をして下さい。一方で、学生は勉強以外にも、学内外で多様な人生経験を積んでほしいと考えています。自分の興味について思う存分勉学に励み、楽しく明るい大学生活を満喫して下さい。

ゼミでは学生が主体的に研究に取り組みます。参加学生が各自の関心に従い、地域経済に関する研究を行います。従って、ゼミ生は主体的に研究に取り組むことが必要です。地域は私たちが日常生活を営む場ですから、私たちが日々感じる問題点や関心事の多くが、地域経済学の課題です。多くのゼミ生が選ぶ研究テーマは、何らかの経済的インパクトが、地域に及ぼす経済効果です。これまでには、たとえば、観光産業、世界遺産登録、国際会議、交通政策、人気アニメ、ワイン産業、プロスポーツ、犯罪、ふるさと納税が地域に及ぼす経済効果などが研究テーマとされています。また、分析手法としては地域産業連関分析が多いですが、シミュレーション分析や統計・計量分析もあります。

ゼミのスケジュールは次の通りです。3年前期はグループワークにより、主に研究手法について学びます。3年後期には、各自の研究テーマを設定し、単独研究を行います。4年前期には、各ゼミ生は、卒業論文作成に向け研究を進め、論文作成やプレゼンテーションを行います。各論文について、ゼミ全体で議論し、各論文の疑問点、問題点や改善点を指摘し合い、より良い論文の作成を目指します。4年後期は、引き続き論文の拡張を行い卒業論文を作成します。

ゼミかどうかはわかりませんが、シムシティの教育への利用について考えています。